

令和6年7月2日

記者発表



〈アクションプラン〉

2025年大阪・関西万博に向けた 和歌山県版アクションプランを改訂しました！

2025年大阪・関西万博開催による経済効果を和歌山県にも最大限に波及させ、県内の地域活性化につなげるべく、本県が誇る世界遺産をはじめ豊富な観光資源や地場産業、食の魅力を国内外に発信し、観光誘客の促進やビジネス機会の創出などに取り組む必要があります。

万博開幕まで300日を切り、県庁全体で取組を加速させるため、2023年7月に策定した「和歌山県版アクションプラン」の改訂を行いましたのでお知らせします。

【主な改訂ポイント】

出展プログラム

I はじめに（経済効果）【内容更新】

- ・万博開催による和歌山県の観光消費による経済効果を更新（p.1）

III 観光振興【内容更新】

- ・和歌山県の特別な1日「和歌山DAY（仮）」の開催日を追加（p.6）

IV 産業振興【内容更新】

- ・本県の地場産業等を世界に発信「和歌山WEEK（仮）」の開催日を追加（p.7）

V 地域振興【新規】

- ・エリアでの万博出展による地域の魅力創出（p.9,10）

機運醸成・県民参加の促進

V 地域振興【新規】

- ・こども達の万博体験として、教育旅行支援事業の実施（p.11）
- ・押し花ワークショップの開催（p.12）

VI 機運醸成【内容更新】

- ・機運醸成イベントの開催（9～12月 空飛ぶクルマ、和歌山プレ万博、シティドレッシング、100日前イベント）（p.13）

VII 県庁全体で取組を促進【新規】

- ・誘客の促進、国際交流プログラムの実施など、万博を契機とした県内の地域活性化に向けた県庁全体の取組を促進（p.14～20）



〈関西パビリオン内：和歌山ゾーン〉

担当者	万博推進課 庄司・古川・光成
連絡先	073-441-2703

2025年大阪・関西万博に向けた 和歌山県のアクションプラン

知事室 万博推進課

2024年7月

〈目 次〉

- I はじめに
- II アクションプランの概要
- III 観光振興
- IV 産業振興
- V 地域振興
- VI 機運醸成
- VII 県庁全体で取組を促進

I はじめに

万博を推進する意義

2025年大阪・関西万博は、約2,820万人の来場者が想定され、経済効果が約3.4兆円（一般財団法人 アジア太平洋研究所試算）にもなる、日本経済の底上げにつながる一大イベント。「開催期間：2025年4月13日～10月13日」

大阪・関西万博の開催効果を和歌山県にも最大限に波及させ地域活性化につなげることを目的に、万博会場に限らず、本県の魅力を万博を契機に国内外に発信し、本県の認知度向上を図り、観光誘客の促進やビジネス機会の創出などに取り組む。

【参考：大阪・関西万博の和歌山県の観光消費による経済効果】

観光消費における経済波及効果額	<u>約330億円</u>
和歌山県への訪問者数	<u>約189万人</u> （国内外含む宿泊・日帰り客）

試算：和歌山県

Ⅱ アクションプランの概要

2025年大阪・関西万博を通じて和歌山県が目指すもの

大阪・関西万博の開催を契機とし、和歌山県の魅力を国内外に発信することにより、本県の認知度向上を図るとともに、観光誘客の促進やビジネス機会の創出を目的とする。

テーマ：将来世代につながる和歌山の未来を創造

観光振興

- ・ 和歌山ゾーン
- ・ 和歌山DAY

産業振興

- ・ 和歌山WEEK
- ・ 空飛ぶクルマ

地域振興

- ・ 地域資源魅力創出
- ・ こどもの万博参加

目指すべき姿：和歌山のプレゼンスの向上と県内各地域の振興

万博でのアプローチ

和歌山ゾーン

和歌山の精神文化から育まれた多様な魅力を表現

- トーテムによる映像表現
- 和歌山の食の提供
- リアルなパフォーマンスの実施

和歌山DAY(仮)

和歌山の魅力をステージパフォーマンスで発信

- 歴史と先端技術の融合
- 県ゆかりのアーティストによるパフォーマンス

和歌山WEEK(仮)

世界で通用する技術力を持つオンリーワン中小企業等の発信

- 人・モノを呼び込むゲートウェイの役割

空飛ぶクルマ

次世代モビリティ産業の創出による産業振興

- ビジネスモデルの創出
- 離着陸場の選定
- 実証運行ルート参入

地域資源魅力創出

振興局が中心となって地域の魅力を創出し、万博を通じて発信

- 学生や企業とのマッチングによる地域資源の開発

こどもの万博参加

未来を担う小・中学生が、未来社会の革新的な技術やサービスを体験する場として万博参加機会を提供

- 県内学校の校外学習としての参加を促進

機運醸成

万博の成功に向け、イベントや情報発信などを通じて、県内全体が自分事として万博を盛り上げる醸成を図る

- 「2025年国際博覧会和歌山推進協議会（※）」を設立
- 機運醸成活動（機運醸成イベントの開催、県内各地域で実施されるイベントへの出展、広報媒体を活用した周知 など）
- 情報発信（メールマガジンによる万博情報の発信、セミナーの開催 など）

※2025年国際博覧会和歌山推進協議会とは

万博の成功に向け、機運醸成を推進し、県内への誘客促進や企業等への情報発信を目的に、和歌山県商工会議所連合会及び和歌山県が共同代表となり、産学官金などの団体により構成された組織

県庁全体で取組を促進

Ⅲ 観光振興

和歌山ゾーン

関西広域連合が設ける「関西パビリオン」内に「和歌山ゾーン」を設置し、和歌山の精神文化から育まれた多様な魅力を表現

関西パビリオン 概要

コンセプト

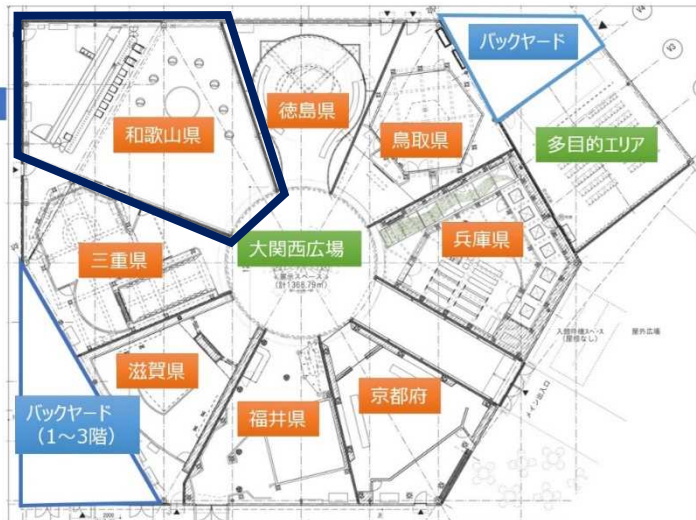
いのち輝く関西悠久の歴史と現在

出展参加の主体： 関西広域連合

出展参加府県： 滋賀県、京都府、兵庫県、奈良県、**和歌山県**、鳥取県、徳島県、福井県、三重県

基本構成：
① 関西全体を表現する展示スペース
② 出展参加府県による独自展示スペース
③ WEBパビリオン

会場地図



<関西パビリオンイメージ>



(提供：関西広域連合)

Ⅲ 観光振興

テーマ

和歌山百景 — 霊性の大地 —

〔 神話の時代から続く和歌山の精神文化から育まれた、自然・人・産業・食・文化などの多様な魅力を「和歌山百景」として表現 〕

コンセプト

“上質”のつまった和歌山

出展意義

和歌山が育んできた精神文化は、多様な価値観を尊重し合う「持続可能な世界」を実現する日本的モデルとなり得ると考え、これを展示によって表現します。

展示構成

3つのコンテンツにより構成

●映像コンテンツ

- ・紀伊山地の巨木も彷彿とさせる**映像タワー「トーテム」**に、CGを用いたアニメーションをベースに、和歌山ゆかりの写真家やアーティストによる作品を織り交ぜ、**和歌山の美しい自然風景や神話と歴史にちなんだシーン等を投影**。

●ステージコンテンツ

- ・**和歌山ゾーンの中央ステージ**において、「**和歌山の今を生きる人**」に**焦点を当て**、祭り、世界遺産、伝統芸能と時期によってテーマを設定する**テーマウィーク**と**レギュラーウィーク**を設けて、**多様なパフォーマンスや展示等を行う**。

●フードコンテンツ

- ・フードコンテンツ全体監修者を設置し、**カウンターバー**において当該監修者が作成した、**豊かな和歌山の食の魅力を提供**。「美味しい」だけでなく「食のアート」体験として、**季節を感じられる和洋菓子を中心としたメニューを提供**。

集客目標

30万人

Ⅲ 観光振興

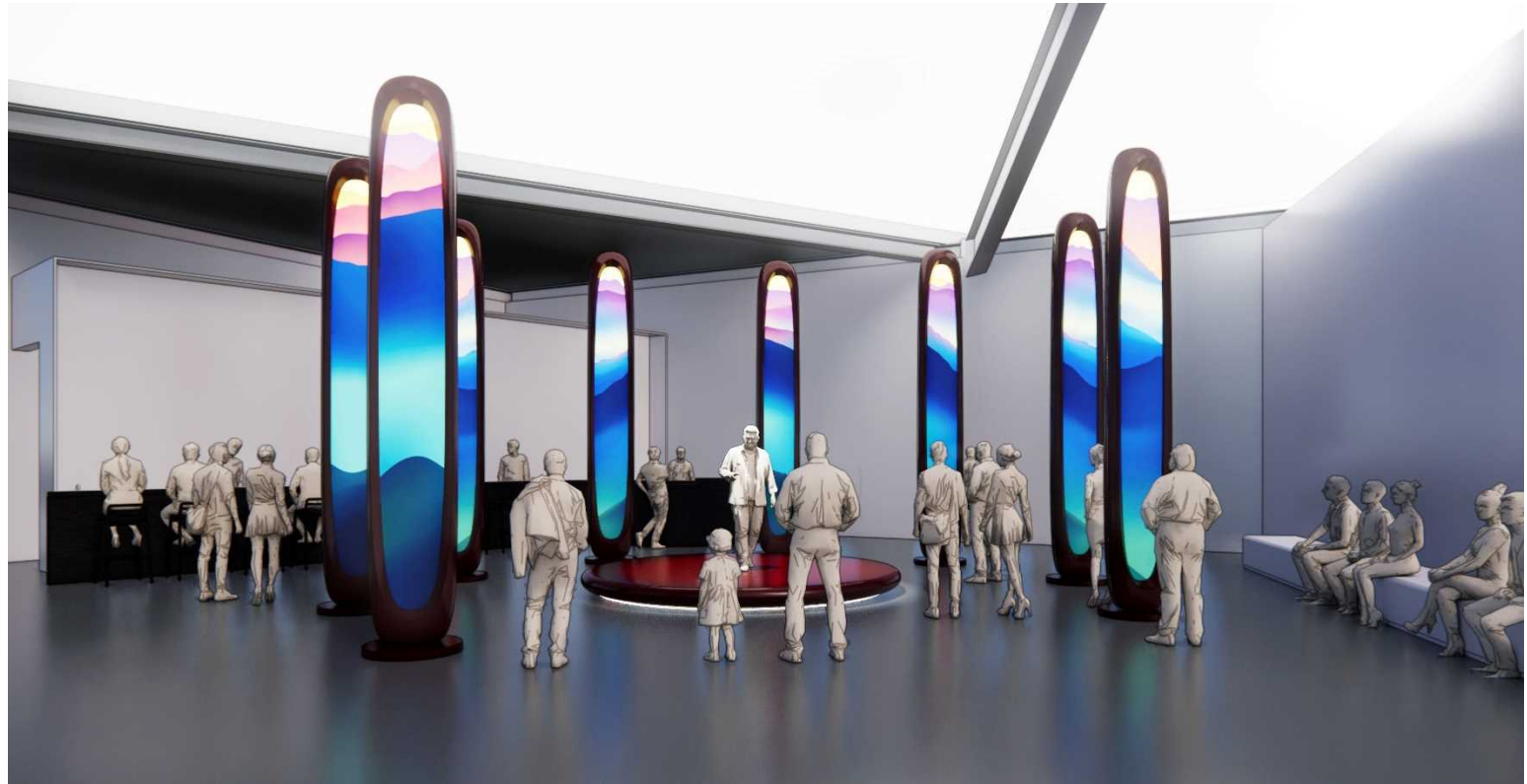


和歌山百景



— 靈性の大地 —

和歌山県



映像コンテンツ



ステージコンテンツ



フードコンテンツ



Ⅲ 観光振興

和歌山DAY (仮)

開催日 : 2025年10月3日 (金)

開催場所 : EXPOホール「シャインハット」、EXPOアリーナ「Matsuri」

万博会場内の催事施設にて、和歌山の歴史文化等の魅力を世界へ発信

概要

県内で活躍する学生や県ゆかりのアーティストによる、和歌山の歴史や伝統文化などのステージパフォーマンスを企画し、国内外へ魅力を発信することにより、人や投資を呼び込む

テーマ

- ①「Sustainability (持続可能性)」
～次世代を担うこどもたちによる文化芸術の発信～
- ②「Spirituality (精神性)」
～心身鍛錬と寛容の精神を発信～
- ③「Serenity (静謐さや静けさ)」
～声明・映像・光の共演による平和への祈り～



施設名称は下記のとおり変更されております。

- ・「大催事場」
→「EXPOホールシャインハット」
- ・「屋外イベント広場」
→「EXPOアリーナMatsuri」

※施設の規模や仕様は、今後変更する場合があります。

(2025年日本国際博覧会協会資料抜粋)

Ⅳ 産業振興

和歌山WEEK (仮)

開催日 : 2025年4月30日(水)～5月3日(土)
開催場所 : EXPOメッセ「WASSE」の一部

万博会場内の催事施設にて、和歌山の地場産業等の歴史や技術を世界に発信

内容

世界で通用する技術力やSDGsに資する取組を有する県内の中小企業者等による
ブース出展やステージでの企業PRを企画

目的

- 企業の成長促進及び販路開拓、SDGsに対する関心度の向上

主な出展予定者

各種の産地組合等の12団体等の出展を予定
(例：和歌山県食品産業協議会、和歌山ニット工業組合、紀州繊維工業協同組合 等)



施設名称は下記のとおり変更されております。
・「メッセ」
→「EXPOメッセWASSE」

※施設の規模や仕様は、今後変更する場合があります。

IV 産業振興

空飛ぶクルマ

万博を契機に、空飛ぶクルマ（※eVTOL）の運航実現を図る

※eVTOL（Electronic Vertical Take-Off and Landing aircraft）とは
垂直に離着陸し、ヘリコプターやドローン、小型飛行機の特徴を併せ持つ電動の機体

内容

- 2025年までを導入期と捉えた空飛ぶクルマの**実証飛行**
 - ・ 空飛ぶクルマの飛行に必要な離着陸場の設置などの体制・環境整備
 - ・ 空飛ぶクルマへの社会受容性の醸成に向けた県民などへの情報発信
 - ・ 県内での安全かつ効果的な実証飛行を実施（2024年9月予定）
- 万博後における空飛ぶクルマの**商業運航**としての活用

目的

次世代モビリティ産業モデルの創出による産業振興

<ポートイメージ>



<空飛ぶクルマイメージ>



和歌山県、株式会社IHI、株式会社長大及び南海電気鉄道株式会社の「空飛ぶクルマ」の和歌山県内での実用化に向けた連携協定締結（2024年2月5日）



出典：経済産業省ウェブサイト
(https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/mono/robot/aam_eng.html)

V 地域振興

エリアでの万博出展

万博を契機に、振興局が中心となり地域の魅力を創出（万博会場にて出展）

目的

- 地域コンテンツの担い手のSDGs等への関心の醸成
- 地域資源の磨き上げ及び創出による誘客促進
- 万博後につながるよう、振興局が主体的に地域活性に資する取組を継続して推進する仕組み作り

(1) 関西パビリオン多目的エリア

出展場所

関西パビリオン内に設けられる多目的エリアにて、振興局主体で地域の魅力を発信

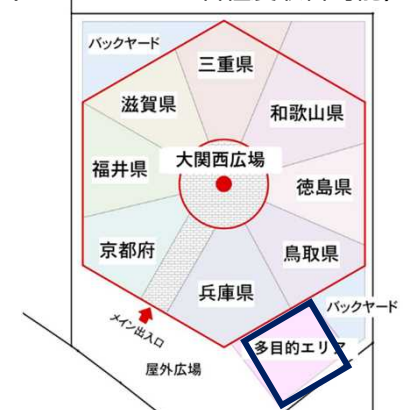
日程

2025年5月6日～17日、9月10日～14日（各振興局2～3日程度の割当予定）

出展内容

各振興局が市町村等と連携して、地域の歴史文化を伝えるステージや、地域産業の体験・販売等を通じ各地域への交流人口の増加に繋げる

多目的エリア 位置図
(127.82㎡ 100名程度収容可能)



(提供：関西広域連合)

V 地域振興

(2) 共創チャレンジ (※)

※共創チャレンジとは
社会課題解決やSDGsの達成に向けた活動など、自分たちが考える
未来へのアクションのこと

出展場所

「TEAM EXPOパビリオン」ステージ (予定)

出展内容

高等教育共創コンソーシアム和歌山に所属する学生と県の各振興局が連携して7つの共創
にチャレンジし、地域の魅力創出や地域課題解決に向け取り組んだ内容を発信

振興局	テーマ
海草	国道370号の利用促進
那賀	紀の川エリアサイクリングによる誘客・周遊促進
伊都	高野山麓地域の周遊観光促進
有田	有田川町清水地域への誘客促進
日高	「和食の源流は日高にあり」を世界に発信
西牟婁	熊野古道 大辺路への誘客促進
東牟婁	移住者受入れ先進地における持続可能な地域づくり

スケジュール

- 2024年 5月：キックオフミーティング (令和6年5月19日)
～地域の魅力や社会課題の解決に向けたアクションを実施
- 11月：共創チャレンジ審査会にて学生らによるプレゼンテーション (年内に合否通知)
- 2025年万博期間中：「TEAM EXPOパビリオン」ステージ (予定) で発表や展示を実施



(提供：2025年日本国際博覧会協会)

<「TEAM EXPOパビリオン」イメージ>



(引用：公益社団法人2025年日本国際博覧会協会HP)

V 地域振興

こども（児童・生徒・学生）の万博参加

【万博教育旅行参加支援】 県内学校の校外学習先を万博へ！

◆大阪・関西万博：「課題解決型万博」であり、地球規模の課題に対して世界中の英知が集結する場

目的

- 将来直面する課題に対するこども達の関心度の向上
- 国際意識の向上によるグローバル人材の育成



支援内容

教育旅行支援の運営事務局を設置、以下の支援事業を行う。

(事務局URL：<https://j-lppf.jp/wakayama-supporters/>)

対象：県内の小・中・義務教育学校並びに特別支援学校等の教育機関の
小学部及び中学部の教育旅行

支援：万博入場チケット費用、
バス費用の一部（自己負担1人当たり約3,000円を予定）

▶ 本取組に賛同する県内外の方や企業に広く支援を求める。

万博推進課HP
～寄付のお願い～



V 地域振興

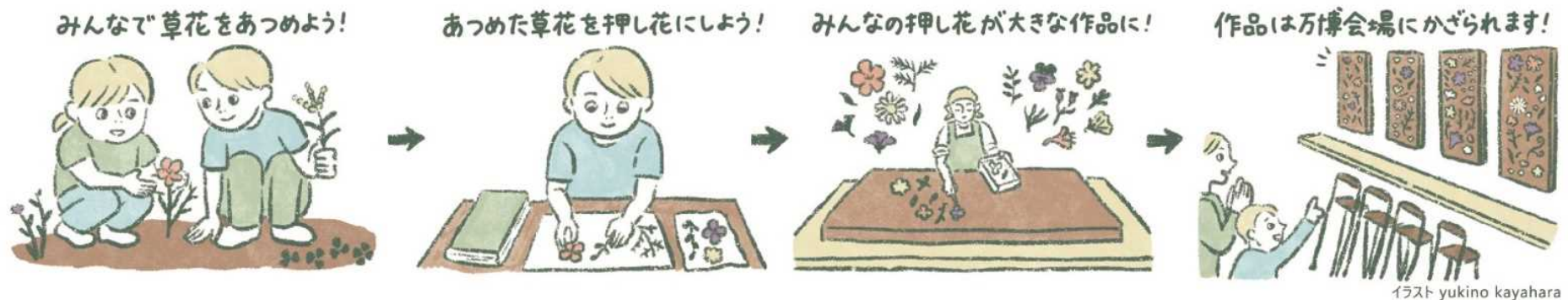
【その他のこども万博参加の例】

(1) 和歌山ゾーンアート制作のための押し花ワークショップ

- ・和歌山ゾーン飲食エリア壁面で展示するアート作品を、地域のこども達と制作。
- ・和歌山県出身のフラワーアーティストとワークショップを開催して制作した押し花を、デザイナーがアート化し、関西パビリオン内の和歌山ゾーンを彩る芸術作品に。

ワークショップ開催日

2024年7月27日（和歌山市内）、28日（田辺市内）



(2) ジュニアEXPO2025教育プログラム

- ・博覧会協会の教育プログラムを通じて、県内の小・中学生や高校生が、万博開催前から万博の取組に参加したり、SDGsについて学ぶことで、万博への興味・関心を高めていく。

VI 機運醸成

和歌山県、2025年国際博覧会和歌山推進協議会として活動を実施

機運醸成イベント

○機運醸成イベントの開催

9月予定

空飛ぶクルマ実証飛行イベント (場所：調整中)

10月12、13日

和歌山プレ万博 (場所：ビッグウエーブ)

・SDGsの取組や県内産業のブース出展、ステージイベント

11月中 (予定)

万博シティドレッシング

12月14日

万博開催100日前イベント (場所：県民文化会館)

・学生を中心とした**県民文化ステージ**



その他

○県内各地で開催されるイベントなどと連携しPRを実施

○メールマガジンを活用した**県内企業等へダイレクトな情報発信**

○万博の情報提供を目的とした**セミナーの開催**

○広報紙や広報番組、看板の設置などの啓発活動

メールマガジン
わかやま万博通信



Ⅶ 県庁全体で取組を促進

誘客への取組

- ①和歌山県を含む旅行商品の造成やメディアへの露出を目指して、国内・インバウンドそれぞれの旅行会社・メディア等のアタックリストを作成
- ②博覧会協会が定める万博PRの強化期間(2024年9月～11月、2025年3月～5月)や各市場の旅行商品の販売開始時期を考慮したアクションスケジュールを作成

各市場の方針

国内

- 主に近畿圏以外のエリアを対象に、大阪・関西万博とセットで和歌山県を訪れてもらうため、旅行会社やメディア等への情報提供を実施
 - ・旅行会社：大阪・関西万博時期の旅行商品造成にかかる時期（2024年夏頃）に重点的に実施し、旅行商品造成を狙う
 - ・メディア：効果のリードタイムを考慮し、2025年2月頃に実施し、露出増加を狙う
- 大阪・関西万博会場を訪れた人を対象に、和歌山県を次の旅の目的地として売り込むためのプロモーションを展開
 - ・万博会場を中心に、京都から熊野三山に至る世界遺産社寺を中心とした御朱印めぐりの仕掛けをPR
- 教育旅行については、各県の商戦時期に合わせて、その管内にある旅行会社と学校に対してセールスコールを実施

インバウンド

- 博覧会協会が定める万博のターゲット国(韓国、台湾、中国、香港、米国)を中心に、県が定める重点国に対して、現地に設置している観光プロモーターや県職員の現地派遣によるプロモーションを実施
 - <アジア市場：韓国、台湾、中国、香港、タイ、シンガポール>
 - ・旅行商品の販売開始時期が訪日の半年前以降となるため、万博のパビリオンやイベントの全容が明らかになってきた段階（2024年10月）から、商品造成に向けた旅行会社へのセールスコールを重点的に実施
- <欧米豪市場：イギリス、フランス、オーストラリア、米国>
- ・欧米豪市場については、FITが中心の市場となるため、万博のパビリオンやイベントの全容が明らかになってきた段階から、県のWEBサイトやSNSを通じた情報発信、BtoC向けメディアに対する情報発信の働きかけの強化など、OTA等からのダイレクトブッキングを利用するFITを引き込めるよう、情報発信を重点的に実施

Ⅶ 県庁全体で取組を促進

国際交流プログラムへの取組

万博を契機とした国際交流による交流人口の増加及びグローバル人材の育成

内容

- 和歌山県内の各地域と関係性のある、または今後関係性を築きたい万博参加国を招聘し、各地の文化や産業などで交流を深め、地域の活性化につなげる
- 万博開催を機に来日する海外青少年と県内学校の学生との事前のオンライン交流や来県時の学校訪問により相互交流を行う機会を創出するとともに、和歌山県の自然・人・産業・食・文化などを体験する機会を提供

例) 有田市×UAEアラブ首長国連邦（国際交流プログラム※登録済み）

※国際交流プログラムとは

万博を契機に、全国各地域の住民と万博参加国・地域の関係者が、地方公共団体の事業を通じ、継続的な国際交流を行うために内閣官房が実施するプログラム

2024年度交流イメージ 【テーマ：教育交流（文化・エネルギー・テクノロジー）】

- ・有田市の学生との共同的な探究学習の実施

万博会期中交流イメージ

- ・お互いの文化や教育を体験する学生の短期交流訪問、文化や伝統を祝う文化交流イベントの実施

Ⅶ 県庁全体で取組を促進

万博に関する取組や魅力を発信

オール和歌山で万博開催に向けた機運醸成に取り組む。

内容

- ・ **広報誌「県民の友」に最新トピックス『万博通信』を掲載**
- ・ **県公式インスタグラム等のSNS活用による万博啓発イベント情報等を発信**
※和歌山県PRキャラクター「きいちゃん」参加イベントに大阪・関西万博の公式キャラクター「ミヤクミヤク」を呼んで一緒に万博を啓発
- ・ **テレビ・ラジオの広報番組を活用した万博出演予定者の取組等の発信**

⇒ **万博開催に多くの県民が関心を持ち、ともに学ぶ機会となることを目指す**

県民の友『万博通信』

○県民の友に、万博に関する和歌山県の取組を中心として、目玉となる動きを最新トピックスとして紙面で毎月発信。



令和6年7月号【こどもの万博参加】
押し花ワークショップ参加者募集！！

SNS活用による情報発信

○インスタグラム（県広報課と「きいちゃん」のアカウント）を活用して、万博啓発を行ったイベント参加情報等を発信。



万博1年前告知
(R6.4.13)



県障害者スポーツ大会
開会式 (R6.5.19)

テレビ等活用による情報発信

○広報番組「きのくに21」等を活用して万博情報を発信。

※事例：吉本興業の前会長で大阪・関西万博催事検討会議共同座長を務める大崎洋さんをゲストに迎え、知事と万博について対談。



Instagram
和歌山県広報課&きいちゃん
(外部リンク)



Ⅶ 県庁全体で取組を促進

県の文化芸術の魅力発信

万博を契機とした県の文化芸術の魅力発信に取り組む。

内容

- ・ 万博に出演する県内文化団体の情報をはじめ、万博での県の文化芸術の魅力発信に関する情報を県立近代美術館、県立博物館等の県内文化施設のウェブサイトやSNS等も活用して発信
- ・ きのくに文化月間（令和6年11月）にあわせて、間近に迫った万博に関する文化芸術情報を発信

⇒ 万博会場で県の文化芸術の魅力を世界に発信していく

県内文化団体の出演

○関西パビリオン和歌山ゾーンや和歌山DAY(仮)等に、県内の各種文化団体が出演し和歌山の文化芸術の魅力を発信。



きのくに文化月間

○毎年11月の「きのくに文化月間」において、市町村や文化団体とも連携して万博情報等を発信。



HP・SNS活用による情報発信

○県の万博情報ウェブサイト（R6年度：秋頃公開予定）との相互リンク等により、文化芸術に関する情報を発信。



Ⅶ 県庁全体で取組を促進

県の地場産業の魅力発信

万博の機会を捉えた地場産業の魅力発信

内容

万博における県内地場産業のPRを見据え、和歌山県内企業及び産地組合等と連携し、様々なイベント等を通じて県民の万博に対する機運醸成に努めるとともに、**地場産業の魅力**を国内外へ広く発信し、**認知度・ブランド力の向上を図る**

例) 和歌山ものづくり文化祭

和歌山県北部の伝統産業等をはじめとする製造業が一堂に集い、各社の技術をその場で体験し楽しむことができるイベント（来場客約5,000人：2023年）。本会場にて万博の周知に協力し、ものづくり文化祭として出展する和歌山WEEKに誘客する。



例) 在関西の駐日総領事館へのPR

近畿経済産業局との連携により、在関西の各国領事館担当者に県の地場産業である繊維（ニット）の魅力を紹介するイベントを開催する。これにより各国要人への認知度を高め、和歌山ニット工業組合として出展する和歌山WEEKの外国人の誘客につなげる。



Ⅶ 県庁全体で取組を促進

県産食材の魅力を発信



万博を契機とした県産食材の魅力発信と販路拡大に取り組む。



内容

- ・大阪をはじめとする関西圏を軸に活躍するバイヤー等への働きかけを強化
- ・わかやまポンチ等の登録店舗紹介等による県産食材の魅力を地域から発信
- ・有名百貨店とのタイアップによるブランド力の向上やマーケット拡大強化
- ・JAや生産者と連携したフェア参加等を通じた外食産業への利用推進

⇒万博会場での県産食材の魅力発信と販路拡大へ繋げていく

大型展示商談会への出展

○わかやま産品商談会 in 大阪
大阪外食産業協会等の協力のもと
関西食品バイヤー等に「わかやま
産品」の魅力を紹介、県内事業者
の関西での販路開拓を支援。

※令和6年度はFOOD STYLE Kansai2025併催



有名百貨店とタイアップ

○在阪百貨店での青果物プロモーション販売に合わせ、京阪神エリアの高級外食店で県産食材を用いたフェアを開催。



外食産業への食材提案

○外食関係者、有名シェフの招へいによる食材の魅力発信。有名ホテル、レストラン等で和歌山フェアの開催や食材の提案。



ホテルオークラ京都



なだ万

Ⅶ 県庁全体で取組を促進

農業遺産・棚田地域の魅力を発信

万博を契機とした県内の農業遺産システムや棚田等を有する農村地域の振興を図る。



内容

- ・ 来年10周年を迎える世界農業遺産「みなべ・田辺の梅システム」地域の農業と地域の活性化
- ・ F A O申請中「有田・下津地域の石積み階段園みかんシステム」の認知度向上
- ・ 農業遺産等を継承するためのワーケーション等、多様な主体参画や関係人口の増加

⇒万博会場での農業遺産認定地域等の魅力を発信

- ・ 伝統的で独自性のある農林業への認知度向上【動画、パネル展示】
- ・ 認定地域等で生産された農産物や加工品の付加価値向上【物販】
- ・ 他県農業遺産認定地域との連携P R【能登の里山里海ほか】



有田・下津地域の石積み階段園みかんシステム
(海南市・有田市・広川町・湯浅町・有田川町)



守るべき農村景観 棚田百選「あらぎ島」
(有田川町)



ワーケーション等多様な主体の参画
(みなべ町)